

石見のお宝「今福線」の活用に向けての取り組み

服部 輝明

1. はじめに

かつて浜田市に「幻の鉄道計画」が存在しました。広島県の可部に向けて走るはずだった路線で、その名を「今福線」といいます。太平洋戦争前、及び戦後の2回にかけて着工がなされたものの、そのどちらも未完成に終わった数奇な運命を持ち、計画自体が中止された「未成線」として鉄道史に刻まれています。この「今福線」の遺構である数々のトンネルや橋梁は現在も残されています。

今福線研究分科会は鉄道遺構を後生に残すため、また地域資源としての利用方法を複数年かけて検討するなど地域活性化のため、活動しています。

2. 今福線研究分科会の活動内容

今福線研究分科会は今年度で5年目を迎えました。昨年度に今福線マップ初版を作成し、島根県技術士会HPに掲載したこと、及び浜田市長に本分科会の活動を報告したこと等をきっかけに、今年度は大きな飛躍を遂げた年となりました。5年間の活動は以下の通りです。

- 1年目・・・基礎調査
- 2年目・・・現地調査及び地元交流による情報収集
- 3年目・・・今福線マップの素案作成
- 4年目・・・今福線マップの初版作成と下長屋トンネル現地調査

表-1 5年目（今年度）の活動内容と成果

活動内容	成果
浜田市長訪問 今福線研究分科会の活動報告(2014/2/13)	→ 市長から観光資源としての売り出しやシンポジウム開催の提案を受けた。
シンポジウムへの参画 主催: 広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム実行委員会 共催: 島根県技術士会 後援: 浜田市、島根県、島根県立大学等 全体会議(2014/7/29) 第1回事前打合せ(2014/9/30) 第2回事前打合せ(2014/12/2) 第3回事前打合せ(2014/12/24)	→ シンポジウム開催日時 平成27年8月8日(土)～9日(日) テーマ:「どう活かす? 幻の鉄道遺産」
新聞掲載 山陰中央新報(2014/10/2)・・・活動内容 読売新聞(2014/10/3)・・・活動内容 山陰中央新報(2014/11/18)のコラム(盆小原氏の執筆)	→ (株)読売旅行松江営業所より見学バスツアー企画について問合せあり。
浜田市との合同現地調査 現地案内(2014/4/27) 安全確保や案内における予算要求を目的とした合同調査(2014/8/26)	
現地調査 市道改良により取り壊される下府橋梁(2014/10/11・14) 下府橋梁～下長屋トンネルの主要な観光スポット(2014/11/15) 丸原地区のトンネル・橋梁(2014/11/16)	→ 形状、強度、鉄筋の確認 → 今福第一トンネル北側坑口の確認

3. サイクリングコースとしての活用

遺構の見学に食や温泉、石見神楽、サイクリングなどを組み込んだ観光コース化が今福線の利活用の1つとして考えられます。

観光スポットになる主要な遺構（下府駅から佐野町の「おろち泣き橋」まで）は数キロ毎に公道沿いに点在し、遺構間の道路は縦断勾配も比較的緩やかなので、ここではサイクリングコースとしての活用を提案します。

沿線は山々に囲まれ、下府川が流れており、自然の香りや風を感じ、川の流れる音を聞きながらサイクリングを楽しめます。以下にサイクリングコースの活用例として、コースマップを示します。



図-1 サイクリングコース～幻の今福線探訪～

4. おわりに

来年度予定されている「広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム」に向けて、土木技術（材料、工法、構造形式）の変遷や今福線に見られる技術（建設年次や施工箇所での構造形式の相違や工夫）といった技術者観点での研究を進めたいと思います。

また、観光コース化などの地域資源としての利用に向けて、関係機関や地元の方々と協力し、引き続き活動していきたいと考えています。

— 以上 —